

第3回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

平成27年10月26日（月）13:30～16:00

南魚沼市役所本庁舎大会議室

1.開 会

(進行：熊倉委員長)

これより第3回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議を開催する。

今回が総合戦略策定前の最後の推進会議となるので、事務局の説明を聞いて、(案)の中でこれだけは最低限、修正しなければならない点があったら、強く簡潔に述べてもらいたい。

それでは南魚沼市長より一言挨拶をお願いしたい。

2.市長挨拶

(市長)

ご多忙中の推進会議への御出席に感謝する。これまで2回の推進会議でご意見やご提言をいただけてきたが、日程的な都合もあり、今回で一定の仕上げとしたい。いただいたご提言の全てを反映することは難しい部分もあるが、方向性を間違わないよう作成し、近日中に公表させていただきたい。今後もPDCAサイクルの中でご意見をいただきながら進めていきたい。これらを進めていくことが南魚沼市の将来を大きく左右することになるので、今後ともご協力願いたい。

3.会 議

(進行：熊倉委員長)

総合戦略が総合計画と違うのは、総合戦略は今年度から既に事業が着手されていることだ。次年度以降の事業についても具体的な方向性を示す必要があるため、現時点で定めておかなければならない。総合戦略で大枠の方向性を決め、事業の進捗過程で、PDCAサイクルによって(戦略の)見直しを図ることが重要であり、そういう意味で積極的な見直しにより事業を進めていく必要がある。

今回の推進会議では、これまで議論してきた大きな柱が(総合戦略に)反映されているのか、まだ、反映されていない重要なものがないか、今後の見直しの中で検討すべきものは何か、といった視点で意見をいただきたい。

推進会議の委員の任期は2年なので、策定後も委員の皆様には総合戦略に関わっていただきたい。これで終わりという事ではないので安心してほしい。そういった点を踏まえて意見を出しあってもらいたい。

それでは人口ビジョン(案)と総合戦略(案)について事務局から説明願いたい。

①南魚沼市人口ビジョン(案)について

(事務局)

事前配布資料：南魚沼市人口ビジョン(案)

当日資料2：南魚沼市人口ビジョン(案)について

により説明

②総合戦略の策定について

(事務局)

当日資料3：総合戦略(案)(差替版)

当日資料4：地方創生にかかる平成27年度交付金事業一覧

により説明

当日資料の見方
当日資料3「総合戦略(案)(差替版)」の文章中の下線部について、
波線の下線部は、地方創生の交付金により今年度から取り組んでいる事業、
直線の下線部は、推進会議や市議会等の意見、提言を反映した部分を示す。

(進行：熊倉委員長)

事務局からの説明のとおり(総合戦略の)策定期限が迫っているが、修正できないわけではないので、(総合戦略に)ここを強く入れたいという部分があれば意見をお願いしたい。

まずは、第1の分野からお願いしたい。

前回、「このままでは不十分ではないか?もう少し数字を入れたらどうか。」とおっしゃっていた塚野委員から意見をお願いしたい。

塚野委員	<p>先ほど市長と委員長から「PDCA サイクルの中で見直していく」という話があった。産業振興においては、前回「更なる検討を要するのではないか」という意見を申し上げたが、継続的な分析や対応策を検討したうえで(事業を)実施していくという点では、総合戦略(案)の11ページ冒頭の「・地域産業の特性を活かすとともに～(略)」の部分に含まれていると認識している。今後、委員として他の委員の方々、行政の方々と協力しながら取り組んでいきたい。</p> <p>そのうえで、主要な事業に「基盤産業の振興及び今後の地域の中核企業あるいは基盤産業育成に向けたマーケティングなどの支援の実施」等の文言を入れてはどうか。入れないとなかなかそういった取組はなされない。例えば、農業や観光に関する意見が多くあったが、農業はいろいろな施策が行われているし、観光の集客の状況であれば、(どの都道府県からどれくらい来ているか)分析できるアプリ等もあると聞く。観光に限らず予算を計上して、そういった分析を行っていくことが大事。その意味から先ほどの文言が(総合戦略に)重要ではないか。</p>
熊倉委員長	<p>大きく2つの提案があった。1つは「継続的な分析、検証を通して」という部分、もう1つは「基盤産業の検証、あるいは強化」という部分。いずれもすぐに具体的な事業という事にはならないかもしれないが、とても大切な視点なので、塚野委員の言葉を反芻して、どの部分に入れたらいいか(事務局で)検討願いたい。次に坂井委員、意見をお願いしたい。</p>
坂井委員	<p>第1の分野ではないが、事務局の説明の4ページ、市の基本目標の「力強く魅力的な産業を育て雇用を創出する」にある「魅力的な産業」というものが「地域の稼ぐ力」という事で「農業、観光、建設業…」を強化していきましょうというストーリーになっていて、そのために地域資源を活用し、若い世代の暮らしやす</p>

	<p>さや協働と連携を図っていく、という説明であった。</p> <p>それぞれの個別政策が商工業の振興等で列挙されていると説明を聞いていたが、従前の事業の焼き直しと映っても仕方がないので、10 ページの図の下「以上のことを…(略)…必要です。」の部分について、「それぞれの課題に取り組んで産業間が連携する」という考え方よりは、本市の稼ぐ力の農業、宿泊業、建設業、飲食サービス業などを連携させることによって、それぞれが抱えている課題を解決していくというプロセスの方が、市民が見たときも「どういったまちづくりをするのか」という部分が直接的にわかってよいのではないかと。</p> <p>本市の資源をすべて結び合わせるといふ部分では、例えば「住んでよし、訪れてよし」といふような滞在型の観光地域づくりの中で、連携させるところを考え、その中で、それぞれの課題を解決しましょうといふような方向性が良いのではないかと。</p>
熊倉委員長	<p>おっしゃる通りなので、連携から結合までを含めて、それによりそれぞれの課題を解決し、より強い稼ぐ力を生み出すといふかたちで(総合戦略を)修正したい。続いて関副委員長、浦佐駅の提言などがこういった形で含まれたが、意見を伺いたい。</p>
関副委員長	<p>駅に直結しているオフィス街はUターン、Iターン、そして若者の流出の防止という観点からも魅力的であると思う。(総合戦略に)関連した項目が何箇所か記載されており、今後のPDCAサイクルの中で、展開を楽しみにしている。</p> <p>また、26 ページの「2-3 地域資源を活用した質の高い観光交流の推進」の項目で「食によるまちおこしイベント」の記載は、イベントに関わる若い人たちにとっても意識向上に繋がると思うので、周囲の関係者と情報共有をしたい。そんな中でKPIに4,000人という目標があるが、もっと高い目標を掲げて取り組んでいくことが大事であり、実際、グルメマラソン、グルメライド、きりざい井などの取組により、人数を伸ばせると思うので、1万人程度の高い目標値にしてはどうか。それにより我々(青年会議所)も、いろいろな会議に出席した際に、市が掲げた目標に向かって今後の事業展開をどうするのか考えることができる。</p> <p>38 ページの教育の部分に、本市の魅力や文化を小・中学生に教え、地域愛を育むことで、南魚沼市に帰ってくるきっかけにもつながる取組を入れてもらいたい。大人でも(市の魅力や文化を)なかなか知らないなので、年に何時間とれるかわからないが、地域の文化・歴史、魅力の発信といふ地域学習の部分に授業に取り入れてはどうか。</p> <p>41 ページのワーク・ライフ・バランスの部分であるが、私の会社(関電気)でも「ハッピーパートナー企業」(新潟県の制度)になっている。取り組んでみたところ、社員にも好評であり、就業規則を見直すことで士気も上がり、会社内が良い空気になった。難しいことではないので、周知に努め、地元企業のレベルアップに繋げてもらいたい。</p>
熊倉委員長	<p>今ほどの4点の意見のうち、3点目の地域学習について38ページに加えた方がいいのではないかとこの事であるが、教育長はどのように考えるか意見を伺いたい。</p>

南雲教育長	<p>良いことだと思っている。今までも直江兼続などのテーマで取り組んできており、(文章を) 加えてよいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>それでは「地域学習、愛郷学習について市民の力を借りて進めます」という方向を事務局で検討願いたい。</p> <p>続いて、保健医療の従事者など医療産業の問題、学校関係の事は就労の問題としてあまり記載がないと感じているが、樋口委員に意見を求めたい。</p>
樋口委員	<p>一昨日の市民病院の竣工式に学院長が出席した折り、現在、医師が 5 名、看護師が 20 名不足していると伺った。医療の充実 (42・43 ページ) といったところにスタッフの確保ということを加えるか、また、23 ページの「選ばれるまちづくり」という部分にそのことを含めて入れるのか、医療の充実という面でポイントになる。市議会からの提言の 5 ページにも「医療・介護などの担い手が特に求められている分野を目指す学生への奨学金」とある。この部分を具体的に盛り込むのは難しいかもしれないが、今後の検討の中で、北里大学保健衛生専門学院の県外からきた学生をこの地に留まらせるような奨学金の拡充などが考えられるのではないかと。それらが「選ばれる」、「住み続けたい」、「ここで働きたい」といった環境づくり直結すると思う。</p> <p>また、市議会からの提言の 5 ページに「地元の産業を豊かにするために農学部等の大学の設置」とあるが、大学の設置要件が緩和されたとはいえ、(設置は) なかなか難しいものがある。以前、羽吹委員の意見にあった商工高校に土木系コースを創設したように、商工農高校をつくるといったことや、商業科の中に観光コースをつくるようなことがいいのではないかと。それらは(総合戦略の)「南魚沼らしい」教育環境という中で、地元の教育機関を資源と捉えて今後検討願いたい。</p>
熊倉委員長	<p>北里大学ではこのたび大村先生がノーベル賞を受賞するという大変なご名譽があった。おめでとうございます。こういったことをきっかけに、こちらに大村先生をお呼びし、記念講演会などを開催するようなこともあってよいと思う。</p> <p>ついては、医療介護の従事者及び、その育成のための支援あるいは環境づくりということ(総合戦略の) どこかに入れることを検討願いたい。</p> <p>次に岩佐委員から全体的なこと結構なのでご意見を伺いたい。</p>
岩佐委員	<p>今回の総合戦略(案)を拝見して、市民が見て「これであれば市が輝くな」という期待を持てるような総合戦略になっているが、そこに、他地域の在住者、例えば東京圏の在住者が見たときに「南魚沼市ってすごいな」と思われるような項目を少し加えていただきたい。</p> <p>例えば、(総合戦略の) 2-1 (23 ページ) の「創造的な事業・仕事に従事する人材(クリエイティブクラス)や、東京圏等からの活動的なアクティブシニア移住を促進します。」を 1-1 (11 ページ) と結び付ける。現在の 1-1 はどちらかというと地元の企業がより輝くための内容となっている。ここに新しい企業が入ってきた時にどのような支援(創業支援、移転支援など)をするのかという部分を加えていただきたい。どちらかというと住みやすさの点で光ケーブルの増強ということが記載されているが、南魚沼市の一番のメリットはやはり交通の便とインフ</p>

	<p>ラ面の優位性であり、インフラ面の優位性には今後この光ケーブルが加わってくると思うので、1-1においてもこの部分を加えた方が良いと思う。</p> <p>また、1-2（16 ページ）の「南魚沼産コシヒカリを核とした農業の振興」の部分に「自然と調和した農業」あるいは「環境と調和した農業」を推進することによって南魚沼産コシヒカリのブランド化をさらに目指す、というような文章を加えることにより、南魚沼産コシヒカリはただ単純に美味しいのではなくて、ここが環境と一緒に農業を育てているのだという事がわかると思う。</p> <p>また、4-3（49 ページ）の「広域連携の推進」について、これは書けないのかもしれないが、南魚沼市は浦佐駅という新幹線駅を持っている地域で、越後湯沢駅もすぐに近くにある。そこに在来線が走り、ほくほく線が走り、高速道路が走っている。この地域には浦佐と越後湯沢という W ゲートウェイがあることを明快に打ち出して、その中心に（南魚沼市が）ある、しかも六日町がその中心にあり、そこから公共交通機関が二次交通として広がっているということを書き込めるとよいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>3 点の指摘があり、移転・企業誘致や移住をして起業する方々に対する支援や対策を進めていきますという部分が必要ではないかということ、光ファイバーケーブルの増強を重複記載でいいので 1-1 に加えるということ、また、南魚沼産コシヒカリに自然と調和した部分を加えるということ。</p> <p>東京向けのパンフレットにはそういったことを強調することが必要。実績に加えるような形で（外に向けて発信する）パンフレットにするべき。同様に 49 ページの部分も、高速交通網と情報網に恵まれて、また自然との共生の中で、皆さんが多様な産業を興しているという部分を冒頭書きで入れておきましょうということですので、直せることであれば追加願いたい。</p> <p>交通網のことがテーマに出たので、続いて大谷委員からご意見を伺いたい。</p>
大谷委員	<p>東京から見た場合の視点が重要だという岩佐委員の意見に賛同する。私は全国を旅して各地を見る機会が多いが、南魚沼市を全国レベルで見ると“チョットした「まち」だな”と感じて自信を持って帰ってくることが多い。山奥、不便、文化的にも閉鎖的というイメージとは対照的なので、外向けには（南魚沼市の姿についての）認識を新たにしてみたいかと思う。観光の推進や移住者の促進など外向きな部分はそれでよい。逆に内向きの部分の方が難しい。</p> <p>なお、今後の PDCA サイクルの進め方については、戦略の修正や、事業の進め方など、委員の任期 2 年の中で難しさを感じる。来年度以降の会議の進め方や意見の集め方などについて工夫をしていただきたい。</p>
熊倉委員長	<p>（総合戦略についての）意見を一通りいただいた後、最後に今後の進め方について皆さんから意見を伺いたいと思っている。</p> <p>次に武井委員から外国人留学生の問題や、あるいはこの地域を海外に繋げていくといった視点で、（この総合戦略で）十分なのか、修正点があるのかご意見を伺いたい。</p>
武井委員	<p>市議会の特別委員会の「総合戦略は抽象的表現とならず、より具体的なものとなるべきである」という提言を踏まえ、次の 2 点を要望したい。</p>

1点目は、無料公衆無線 LAN の整備促進。2点目は生涯学習センターや公民館での国際理解や英会話講座の実施。

1点目の無料公衆無線 LAN の整備推進は、11 ページに基幹産業として「農業、観光業、建設業など」が記載されていて、また、「海外市場を視野に入れた販売力・営業力の強化を促す」とあることなどを踏まえたものであり、市議会の提言書の9ページの②にも「無料 Wi-Fi の整備」が記載されている。昨年11月に総務省が公表した資料では Wi-Fi 整備の現状と課題について、訪日外国人観光客の32.7%が無料 Wi-Fi の環境が十分ではないと回答している。(H25.12 調査実施)

その後、総務省と観光庁が連携して促進協議会（無料公衆無線 LAN 整備促進協議会）を今年8月に設立している。総務省による自治体の Wi-Fi 環境整備への補助事業があるようなので、これらの活用も可能だと思うので（総合戦略の）26ページの「2-3 地域資源を活用した質の高い観光交流の推進」への記載と KPI への落とし込みを検討願いたい。

(参考資料：H26.11 総務省資料の抜粋)

【参考】 訪日外国人による日本及び自国のWi-Fi利用環境に対する評価

3

訪日外国人は、日本のWi-Fi利用環境について、利用可能場所については自国と遜色ないものの、利用手続の簡便性の面でやや低く評価をしている。

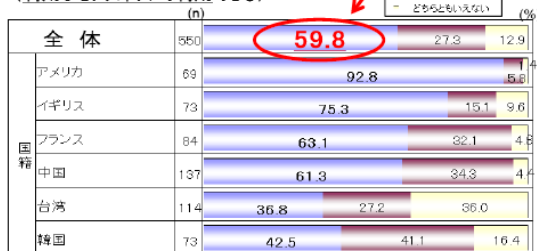
訪日外国人による日本の評価

Q1 ここ半年以内に日本を訪れ、無料無線LANを利用した方に質問です。日本の無料無線LANの利用した感想を教えてください。

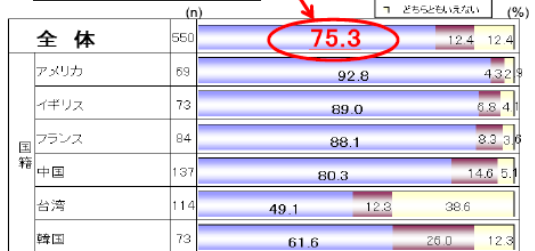


訪日外国人による自国の評価

Q2 自国の無線LANの利用環境について、どのように感じていますか。それぞれ当てはまるものを教えてください。(利用したいスポットで利用できる)



Q3 自国の無線LANの利用環境について、どのように感じていますか。それぞれ当てはまるものを教えてください。(接続時の設定・手続きが簡便である)



出典：平成25年度国内と諸外国における公衆無線LANの提供状況及び訪日外国人旅行者のICTサービスに関するニーズの調査研究 (総務省による2013年12月実施の調査結果)

2点目の生涯学習センターや公民館での国際理解や英会話講座の実施については、総合戦略の16ページ「1-2 南魚沼産コシヒカリを核とした農業の振興」や26ページ「2-3 地域資源を活用した質の高い観光交流の推進」、38ページ「3-2 「南魚沼らしい」教育環境の充実」が関連すると思われるが、29ページにある「学びの循環社会の創造」の部分では、現状、生涯学習としては成年講座を実施していて、主に教養・文化講座が主体となっているようである。今後、広く市民

	<p>の方々に国際理解や英会話を学習する機会を提供する必要があるのではないかと 思うので、これらについて記載願いたい。</p>
熊倉委員長	<p>公衆無線 LAN の整備については、(総合戦略の) 26 ページだけでなく 11 ページの 1-1 にも関係してくる。20 ページ、24 ページにも情報インフラの整備の記載があるので複数箇所への記載を検討願いたい。</p> <p>また、国際理解講座あるいは英語教育についても、実用英会話や実用的な国際理解などは子どもに限らず、(総合戦略の) 複数の箇所に記載し、(企業誘致や海外進出などへの) 市の構想とするべき。</p> <p>次にインバウンドも含めて観光について矢口委員から意見を伺いたい。</p>
矢口委員	<p>インバウンドに関しては取り組みが始まったばかりであり、記載のとおりでよいと思う。観光面に関しては、(主に) 日帰りのグルメライドなど (のイベント)、そして「本気井」などもあるが、(観光客に) 1 泊 2 日や一昼夜を通して体験してもらおうようなものがあまりない。泊まることでその地域の魅力をわかってもらえる面もあるので、一般の宿泊業の人達の見線で考えた企画なども取り入れて進めてもらいたい。(総合戦略の) 28 ページの道の駅の有効活用を含め、イベントの目的を宿泊に結び付けるような取組をお願いしたい。</p>
熊倉委員長	<p>理想論ばかり追いかけ足元を疎かにすることのないような施策が観光に望まれるということであり、観光のベースとなる部分を強化したうえで、インバウンドや新しいイベントに取り組んでいくという部分を整理して記載願いたい。</p> <p>続いて地域資源の開発や評価について、高橋委員そして坂井委員からご意見を伺いたい。</p>
高橋委員	<p>前回の推進会議での私の発言は (総合戦略の) 30 ページに「地域文化を地域の誇りとして学び、保存し活用する」で記載されているが、前回の岩佐委員の発言にあったように、アートや文化などの「もの」ばかりではなく「ひと」にも焦点を当てた記載もお願いしたい。</p> <p>地域文化を継承している人であったり、地域の先賢であったり、そういった「ひと」がクローズアップされ、広く知られるような機会があるとよいと思う。</p> <p>歴史に名前が残るような人でなくとも、一般の方でもそう行った方が大勢いると思うので、広く取り上げられるようお願いしたい。</p>
熊倉委員長	<p>地域の文化を継承してきたのは「ひと」そのものであり、そういったことを大切にすまちとして、「ひと」を資源とし、「ひと」の力を借りながら地域を発信していくということがあればよいと思うので、文章として記載願いたい。これについては、高橋委員と岩佐委員からもどんどん情報発信をお願いしたい。</p> <p>(参考資料：南魚沼市民憲章)</p> <p>わたしたちのふるさは、魚野川、越後三山と巻機山、カタクリの群生など、豊かな自然に恵まれています。先人たちは、この美しく、ときには厳しい自然と共存しながら、人間を思いやり支えあう気持ちを はぐくみ、ふるさとの歴史を刻んできました。また、コシヒカリをはじめとする特産物とものづくりは、先人たちの知恵と努力の結晶です。</p> <p>わたしたちは、先人たちが守り発展させてきたこの「人間・自然・ものづく</p>

	<p>り」をいつまでも大切にし、明るく住みよいまちづくりを進めるよりどころとして、この憲章を定めます。</p> <p>・わたしたち南魚沼市民は、人間を大切にします。</p> <p>・わたしたち南魚沼市民は、自然を大切にします。</p> <p>・わたしたち南魚沼市民は、ものづくりを大切にします。</p> <p>続いて坂井委員から意見を伺いたい。</p>
坂井委員	<p>雪国の文化の本質のところ、現在、(総合戦略 26 ページの) KPI がイベントの人数になっているが、そこからもう一歩先の部分、本質のところをどう捉えるのかというところを全員で考えていくということが大事であろう。</p> <p>また、(総合戦略の) 31 ページで、市民がバスを利用しやすくなるということはもちろんであるが、市外から来る人にとってもわかりやすいものとする必要がある。「マップを作成しました」だけでなく、市外から来る人はそのマップをどこで入手できるのかとか、例えば、それがスマートフォンでいつでも多言語で見られるなどの取組が、移動しやすい、暮らしやすいにつながるの、それらのことを含めて検討願いたい。</p>
熊倉委員長	<p>高橋委員の提言を受けて坂井委員からも「ひと」や文化そのものに光を当てるべきという意見をいただいた。KPI として設定することは難しいので、文言で記載するように検討願いたい。また、バスの利用については、市民の利用が主ではあるが、市外からの来訪者にとっても使いやすいものとするべきであり、外国人旅行者は国内を JR 等で動くが、いざ駅に降り立って見たらどこにも行けないということも多い。国際大学などの力も借りながら、そういったものに取り組んでいくということも南魚沼市らしさとなると思うので、これも KPI としてではなく文章で記載できるように配慮願いたい。</p> <p>岩佐委員、補足があればご意見願いたい。</p>
岩佐委員	<p>「ひと」という点で言うならば、国際大学のことがもう少し入っていてよいのかなと思っている。教育分野で国際大学の留学生との交流の促進などが記載されているが、国際大学の学生は車を持っていないため、活動範囲が凄く狭い。学生が六日町や塩沢にもっと気軽に来られるようになれば、必然的に交流が発展して、多様な言語が飛び交って国際的な雰囲気になり、子どもたちが英語を勉強しようと思ったりと、そういったことが自然に発生する。実際に、どういった取組がよいのかと言えば、国際大学に広域循環バスを走らせてくれというのも無理でしょうから、二次交通を結ぶことで学生がいろいろな形の交流ができるようなまちづくりを行っていく必要があり、それが国際化や国際的な観光地に繋がるために裏で支える重要なことになるのではないかなと思う。</p> <p>また、抽象的な話になるが、食と文化、南魚沼産コシヒカリや農産物を食文化と絡めてこのまちの資産にするんだということや、農業と観光が繋がるんだといった文言がどこかにあると、より連携が深まるのではないかな。</p>
熊倉委員長	<p>なかなか「うん、そうだよ」とは言えないだろうが、武井委員、樋口委員、(国際大学、北里大学保健衛生専門学院として) 今の意見をお受けとめただければ</p>

	<p>と思う。</p> <p>また、食と文化、「ひと」を総体の地域資源として産業の種にしていくということと、塚野委員の「分析や検証」や、高橋委員や岩佐委員の「ひと」の意見を上手く繋ぎ合わせてトータルで見ることができるような PDCA サイクルがこの委員会が続く中で作り上げられたらよいと思う。</p>
井口市長	<p>先ほどの国際大学の話で、買い物はジャスコでしかできないという不便もある中で、現在、週に1回程度、市でバスを出す方向で商工会と協議を進めている。直行バスで六日町や塩沢の牧之通りに行っていただき、時間を決めて帰るということを実施したいと思っているので、(総合戦略では)国際大学と北里大学保健衛生専門学院を含めて記載し、実施していく方向で進めたい。</p>
熊倉委員長	<p>それでは最後に南雲委員より、県の立場として今回の総合戦略のまとめ方についてご意見を伺いたい。</p>
南雲委員	<p>今回の総合戦略ではなく、次回以降の見直しの際に検討いただければと思うが、総合戦略には方針、指標、主要な事業がこの順に掲げられているが、事業は毎年入れ替わる。事業が変わる都度、この会議を開いて計画を変えるわけにもいかないだろう。</p> <p>そこで、年々変わるこういった部分は計画から外して添付資料化し、状況に応じて最新の内容としておいてはいかがか。将来的な検討としていただきたい。</p> <p>また、観光の指標に入込客数があるが、観光を産業として捉えるのであれば、指標としては売上高や観光産業の従事者数を掲げることも必要だと考える。</p>
熊倉委員長	<p>(指標には)客観的な数値が必要ということで、すぐにとれる数値を採用した部分が多いということは事実である。塚野委員の意見にあったように、産業を分析するために多面的なデータを集める必要性も十分理解しており、南雲委員の意見も同様の意味だと思う。それらはこれを機会にして、坂井委員の意見にあったように全体に連携・結合ができて、皆さんが暮らしていけるということの結果、「こういった数値が出てきているのだ」、「私が働いたり活動することで、この数値が上がったのだ、下げ止まりになったのだ」ということが実感できるように、この委員会で検証を続けることが大切であろう。</p> <p>さて、それでは今後の推進会議の進め方について、委員の中でご意見があれば伺いたい。</p> <p>塚野委員いかがか。</p>
塚野委員	<p>今回で KPI や事業が決まったことになるが、これを1年経って PDCA を回すことがよいのか、途中で並行して、会議として集まらなくとも、部会のような形で分けながらローリングしていくのがよいのか議論の余地がある。私は並行して、例えば(1年の)中間とか3分の2程度で見直しのための現状把握をしておくというのが必要だと思う。そのうえで1年を総括して見直し方針を検討した方がスムーズで現実的ではないか。</p>
熊倉委員長	<p>次に大谷委員はいかがか。</p>
大谷委員	<p>率直に申し上げますと、PDCA サイクルをどの頻度で行うかは、どちらでも構わないが、私は地元の民間企業に勤めているので、PDCA の議論に毎回参加するの</p>

	は業務とのバランスから考えて正直厳しい。それよりは、せつかくの機会でもあるので「南魚沼市はこれだ」ということを議論する時間としていただきたいと考える。
熊倉委員長	次に坂井委員いかがか。
坂井委員	それぞれに KPI が掲げられて主要な事業が記載されたが、主要な事業の進捗や内容の検討がその時々どこかで行われたらよい。
熊倉委員長	次に樋口委員いかがか。
樋口委員	これだけ多くの事業と KPI があるので、まとめて検証するのは非効率的ではないか。坂井委員の意見がよいのではないか。
熊倉委員長	次に矢口委員いかがか。
矢口委員	総合戦略が公表されて1年経ったときに、「やっぱりお役所仕事だったな」と言われないようにするために私たち委員がいるのだと思う。その意味では途中経過の報告があった方がよいのではないか。
熊倉委員長	次に高橋委員いかがか。
高橋委員	特別こうしなければならないという意見はない。
熊倉委員長	次に武井委員いかがか。
武井委員	大学の PDCA の場合に例えると、おそらく（市庁内の）推進本部会議が自己点検評価を行って、それに対して、私たち推進会議が外部評価を行うという流れになると思うが、その場合であれば、内部の評価に対して意見を述べるという役割が外部評価委員なので、それほど負担にはならないのではないか。行うのであれば自己点検と、外部評価で PDCA を回していただきたい。
熊倉委員長	次に岩佐委員いかがか。
岩佐委員	CCRC の推進協議会の方で部会を設けていて、ここにいる関副委員長と一緒に部会で会議を行った。そこでは非常に活発な意見が出た。PDCA を検証していく際にも部会形式にして、目標達成するためには、より具体的にどうしていったらよいのかという部分を突っ込んで話をする必要がある。その場合には少人数の方がお互い言いやすいということもあるので、ある程度分けて担当の方と一緒に「こうしたら目標が達成できるのではないか」ということを検討し、HP などで公表するといったことが必要ではないか。
熊倉委員長	関副委員長はいかがか。
関副委員長	<p>総合戦略が骨格ということで、これは会社で言えば1年間の事業計画。ここからどんなまちづくりをしてどう肉付けをしていくのかという具体論のところは重要。</p> <p>各項目に対して、具体的にどういった事業をやっていくかというところには是非、市民の意見を取り入れるべきと思う。そのためにチェックというものは当然必要なので、全体のチェックをするのは推進会議で良いと思うが、部会制、委員会制にして、我々のほかにも有識者、この事業をやるにはこの人が強いという人材を加えて少人数でしっかりと話し合っって事業構築をして、それを実行して、それをこの推進会議でチェックをするというくらいにして、是非この総合戦略が絵に描いた餅にならないようにしていただきたい。私は時間があるとは言わない</p>

	<p>が、市が良くなるためなら協力するので、実働できるような組織にしていきたいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>ここで、あえてまとめることはしないが、ほぼ委員の方々の意見は集約されたように思う。通常の委員会で「今後、この委員会をどうするのか」と自分たちで議論することは滅多にない。市から「こうしてくれ、ああしてくれ」ということはあっても、自分たちで考え出したこと自体が、総合戦略と総合計画の違いであろう。ある意味、総合計画は市の業務の計画である一方、総合戦略は市が取りまとめはするが、市民と市に関わる事業者の皆さんと一緒に議論することによって、この地域に暮らし続けられる状況を作る。そしてそれを5年くらいを目途にしながら細かく点検をして、関わる人々がお互いに意見を出し合って進めていこうという、これまで国になかった仕組みだと思う。皆さんが「より積極的に関わるよ」、「私たちだけではなく、この件についてはもっと意見があったり、既に関わっている方がいるよ」という人も含めて、担当課の職員と会いながら自己評価したり、外部から第三者評価をしたりしながら進むということになっていくのだと思う。</p> <p>そのような意味で11月以降にバトンタッチをする形とし、議題の③の推進会議の進め方についても、事務局の考えを聞くのではなく、推進会議の意見を引き継いでいただく形で事務局にお渡ししたい。</p> <p>それでは、最後に市長からお話をいただいて会議を閉じたい。</p>
井口市長	<p>皆様方の熱心なご意見を伺って本当にありがたいことだと思っている。今後の進め方についても正にそのとおりである。合併の際に合併協議会を設けて新市建設計画などを検討した時も、(委員の)人数は多かった。(会議の進行は)行政側が出した資料に沿った方向に行くことが多く、それはそれで間違っていないが、根本的にどうするのかという部分を深く探る際は2、3人で資料を出し合っるところで話し合わないとなかなか形にならないと実感している。</p> <p>皆様方からは次回以降の進め方についてのご提言もいただいた。</p> <p>いただいたご提言が極力活かされるように事務方も努力する。漏れる部分があるかもしれないが、トータル的には必ず入っているという工夫をしながら期待に応えなければならないと思っている。</p> <p>3回という短い期間であったが、内容の濃い会議であった。当初は皆様方から「あれはどうなっているのか、これはどうなっているのか」ともっと聞かれると思ひ、幹部職員を揃え会議に臨んだが、ほとんど聞かれることはなかった。</p> <p>今回、新しい形の会議ということで我々も勉強させていただいた。これからも南魚沼市のためにお知恵を拝借させていただくことをお願い申し上げ、お礼に替えさせていただく。</p>
熊倉委員長	<p>本日は市議会議員の方々も傍聴されているが、本日は傍聴ということにさせていただき、今後、市民の方々、事業者の方々とともに細かく話し合っただきながら成果を上げて、5年後には例えば「CCRCのモデル地区には南魚沼市を選んで本当によかったね」と国が思うようなところに持って行きたいと思うので、引き続き協力願いたい。</p>

ひとまず私は責務を果たさせていただいたということで、事務局に進行をお返しする。

(閉会)

(清水企画政策課長)

ご多忙中の御出席に感謝申し上げたい。本日の会議を踏まえて、精一杯見直しを行い、期限までに総合戦略を公表することとしたい。

また、公表後にご意見等をその都度ご教授いただければ幸いに思う。

(熊倉委員長)

最後に関副委員長にまとめをしていただいて閉会としたい。

(関副委員長)

これをもって素晴らしい総合戦略ができたわけだが、これはあくまで背骨である。ここからいろいろなところに波及していく事業がそれぞれ成功に終わって、この南魚沼市が素晴らしいまちに一步一步進んでいくことを祈念して閉会としたい。

以上をもって第3回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議を閉会する。

16:00 閉会